

戦略の効果検証 (案)

基本目標2 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

＜戦略で掲げた施策の基本的方向＞

- 出会いから結婚までの支援
 - ・ 結婚をしたいと望んでいる若者が、希望どおり結婚できるように、出会いから結婚に至るまでの支援を進めます。
- 安心して子育てできる環境整備
 - ・ 安心して子どもを産み、育てられるような支援体制を充実するとともに、地域全体で子育てを応援する環境整備の推進に努めます。

この資料は「基本目標2 結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の効果検証として、K P Iの達成状況、戦略に掲げた各事業の実績※や現状とのギャップについてまとめたものです。

基本目標 2 に係る数値目標・K P I の達成状況

数値目標・K P I			基準値	目標値	実績					達成度 ※1	達成度 ※2	評価 ※3
					2015	2016	2017	2018	2019			
出生数（5年平均）			143人 (H22～H26)	145人 (H27～H31)	145人 (H23～H27)	142人 (H24～H28)	147人 (H25～H29)	142人 (H26～H30)	—	98%	△50%	D
①	結婚の希望をかなえる	婚活事業による成婚数	—	年間5組	—	—	0	0	0 (見込)	0%	0%	D
②	安心して子育てできる家族への応援	町民の子育てに対する満足度※4 (満足と感じている人の割合)	77.4% (H27)	82%	—	—	—	—	アンケート実施中※4	—	—	—
③	子育てをしながら働き続けられる環境整備	ハッピー・パートナー企業登録数	1 (H26)	H27～H31の累計で10	1	4	4	7		70%	67%	C
		くろみんマークの認定を受けた企業数	0 (H26)	1	0	0	0	0		0%	0%	D

※1 達成度1=実績値/目標値 100%で目標値達成

※2 達成度2 = (実績値 - 基準値) / (目標値 - 基準値)

※3 ※2において、A : 達成度120%以上、A' : 達成度100%以上120%未満、B : 達成度80%以上100%未満、C : 達成度50%以上79%未満、D : 達成度50%未満
達成度について2019年度の見込みが不明の場合は2018年度実績で算出

※4 ※19歳～39歳の男女に対して行った町民アンケートにおいて、子どもがいる人に聖籠町での子育てに満足しているかを質問

◇ 結婚の希望をかなえるための婚活事業の推進

定住自立圏連携事業

〔基盤整備の評価〕



- 「1：2014年時点から後退している」
- 「2：2014年時点から概ね変わらない」
- 「3：2014年時点から進展している」「プラン・タイムスケジュールができている」
- 「4：2014年時点から進展しており、期待した成果を上げている」「プラン・タイムスケジュールどおりに進んでいる」
- 「5：2014年時点から進展しており、期待した以上の成果を上げている」「プラン・タイムスケジュールが前倒しで進んでいる」

〔実績〕

- 新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏連携事業として、婚活事業を実施
 - ・ 出会いイベント（R1：そば打ち体験、星空観測など）
 - ・ 結婚や家族をテーマにしたライフデザインセミナー
 - ・ 恋カフェ（婚活無料相談会）年8回
- 3市町村で連携することで町単独で実施するよりも経費面で効率的である。

	2016	2017	2018	2019
婚活事業による成婚数	—	0	0	
出会いイベントの開催件数	—	7回	6回	3回
参加者数（うち町民）		385(10)	188(3)	56(3)

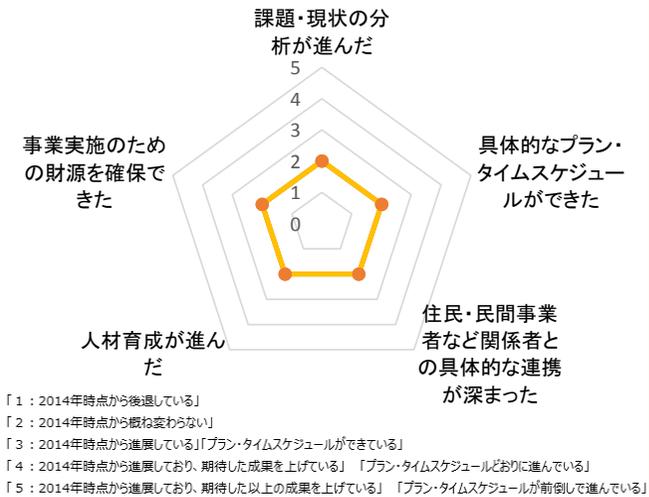
〔戦略と現状とのギャップ等〕

- 結婚を希望する人にとって出会いの場の一つを提供しているが、事業のインパクトは大きくない。
※ 現戦略策定時のアンケート調査（H27年度実施）では、未婚の理由は「相手にめぐり合わない」（40.5%）が最多であった。



◇ 健やか子育て誕生祝金・健やか子育て支援金の支給

〔基盤整備の評価〕



〔実績〕

- 出生率の向上と若者の定住を目的に町独自の施策として誕生祝金、子育て支援金を支給。
 - ・ 誕生祝金：第1子から第3子まで5万円、第4子以降10万円
 - ・ 子育て支援金：第4子以降、小学校就学前まで1人あたり月額5千円

		2016	2017	2018	2019
誕生祝金	人数	121人	133人	115人	
	総額	6,200千円	6,950千円	5,900千円	
子育て支援金	人数	28人	29人	28人	
	総額	1,675千円	1,800千円	1,600千円	

〔戦略と現状とのギャップ等〕

本事業は子育ての経済的負担の軽減策として機能している。

◇ 妊産婦及び子どもの医療費等の助成

〔基盤整備の評価〕



〔実績〕

- 妊産婦及び子どもへ医療費の自己負担の一部を助成。
 - ・ 通院：1回530円負担、同一医療機関・同月の2回目以降負担なし。入院：1日1,200円負担
 - ・ 子ども医療費は、2019年度より対象者を満18歳（高校卒業）までに拡充。

		2016	2017	2018	2019
妊産婦医療費助成	対象者数	145人	166人	137人	
	総額	1,701千円	1,294千円	1,490千円	
子ども医療費助成	対象者数	2,033人	2,072人	2,176人	
	総額	52,517千円	52,396千円	52,045千円	

〔戦略と現状とのギャップ等〕

本事業は子育ての経済的負担の軽減策として機能しており、そのインパクトも大きい。

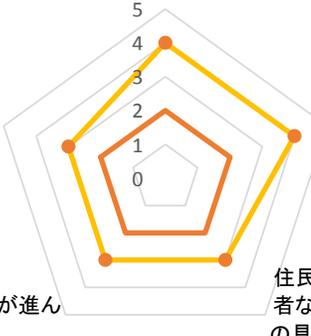
◇ 子育て支援体制の充実

〔基盤整備の評価〕

* ソーシャルワーカーについての評価

課題・現状の分析が進んだ

事業実施のための財源を確保できた



具体的なプラン・タイムスケジュールができた

住民・民間事業者など関係者との具体的な連携が深まった

人材育成が進んだ

- 「1：2014年時点から後退している」
- 「2：2014年時点から概ね変わらない」
- 「3：2014年時点から進展している」「プラン・タイムスケジュールができています」
- 「4：2014年時点から進展しており、期待した成果を上げている」「プラン・タイムスケジュールどおりに進んでいる」
- 「5：2014年時点から進展しており、期待した以上の成果を上げている」「プラン・タイムスケジュールが前倒して進んでいる」

〔実績〕

- 2017年度には、2014年度に設置した子ども家庭相談センターのソーシャルワーカーを増員して3人体制とし、各学区担当の相談体制としている。
- 保育園、小中学校、保健師、福祉関係者などと事例検討を実施し、関係機関の連携を構築（ケース会議等：2018年度：91回）

	2016	2017	2018	2019
相談案件数	283件	206件	317件	

〔戦略と現状とのギャップ等〕

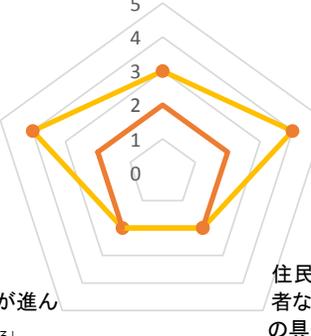
センターの活動の定着とともに、相談件数は増加してきており、子育ての孤独や不安に寄り添い、子どもに関する諸問題に対応する事業の重要性が高まっている。

◇ 仕事と子育ての両立の応援

〔基盤整備の評価〕

課題・現状の分析が進んだ

事業実施のための財源を確保できた



具体的なプラン・タイムスケジュールができた

住民・民間事業者など関係者との具体的な連携が深まった

人材育成が進んだ

- 「1：2014年時点から後退している」
- 「2：2014年時点から概ね変わらない」
- 「3：2014年時点から進展している」「プラン・タイムスケジュールができています」
- 「4：2014年時点から進展しており、期待した成果を上げている」「プラン・タイムスケジュールどおりに進んでいる」
- 「5：2014年時点から進展しており、期待した以上の成果を上げている」「プラン・タイムスケジュールが前倒して進んでいる」

〔実績〕

- 2016年度：民間保育園1施設の定員増のための増築について経費を補助
- 2018・19年度：年度の途中入園における待機児童を発生させないように、保育士確保のための人件費を補助（2018年度は県の待機児童解消モデル事業を活用。2019年度は町単独。）

	2016	2017	2018	2019
待機児童数	0人	0人	0人	

〔戦略と現状とのギャップ等〕

保育ニーズは増加していることから、受け入れ体制の確保の重要性は高まっている。

◇ 放課後児童クラブの充実

〔基盤整備の評価〕



〔実績〕

- 放課後児童クラブ専用施設を整備。
 2015年度：蓮野学区 2016年度：山倉学区
 2017年度：亀代学区

	2016	2017	2018	2019
通常入会者延べ人数	24,433人	23,697人	25,952人	31,000人 (見込)
利用料金（月額）	6,000円	8,000円	8,000円	5,000円

〔戦略と現状とのギャップ等〕

仕事と子育ての両立を望む共働き家庭の増加から、放課後における子どもの適切な遊び場や居場所（生活の場）のニーズは高まっている。

◇ 子どもの放課後対策等の連携と充実

〔基盤整備の評価〕



〔実績〕

- 2018年度～：社会教育課の週末体験クラブで実施している創作体験や図書などの読み聞かせを児童クラブで実施。
 - ・ 2018年度：27回、2019年度：20回（予定）
 - ・ 事業運営には地域ボランティアも加わることもあり、異世代の交流も生まれている。

〔戦略と現状とのギャップ等〕

仕事と子育ての両立を望む共働き家庭の増加から、放課後における子どもの適切な遊び場や居場所（生活の場）のニーズは高まっている。
 国の「放課後子ども総合プラン」では放課後児童クラブと放課後子ども教室（全ての児童を対象、学習・体験の場）の一体的又は連携した実施を推進することとされている。

◇ 病児・病後児保育事業

〔基盤整備の評価〕



〔実績〕

- 2016.9月に新潟聖籠病院内に病児・病後児保育園(聖籠あおい保育園)を開設
 - ・ 利用料 2,000円/日
 - ・ 広報活動により事業に対する認知度も定着しつつある。
 - ・ 2018年度から申請手続きの煩雑さを解消し、即日入所可能とした。

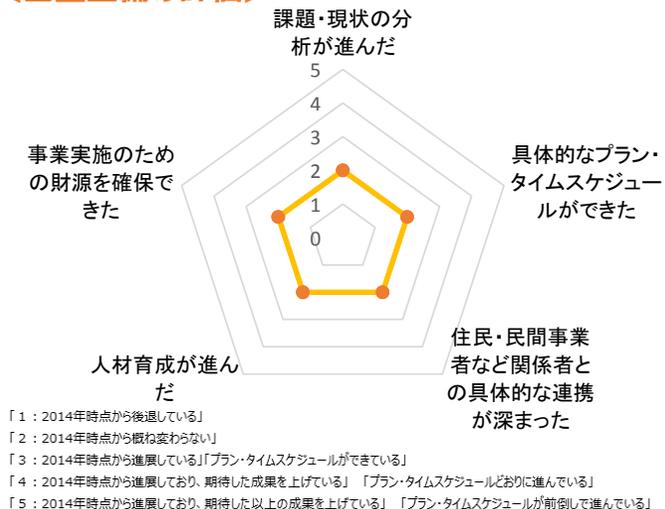
	2016	2017	2018	2019
延べ利用人数	25人	82人	96人	

〔戦略と現状とのギャップ等〕

核家族や共働き家庭が増加するなか、病児・病後児保育のニーズは今後も高まるものと思われる。

◇ 町立こども園（幼稚園）の通常保育料無料化の継続

〔基盤整備の評価〕



〔実績〕

- 町独自の政策である通常保育料無料化を平成17年度から継続している。
- 2019.9月に実施した転入・転居者アンケートにおいて、聖籠町を選んだ理由は「仕事・通勤に都合がいい」(889点)に次いで、「子育てがしやすい」(713点)で第2位。「子育てがしやすい」を選択した人の90%が、その理由として「通常保育料が無料」を挙げていることから、通常保育料無料化のインパクトはかなり大きく、町の看板施策となっている。

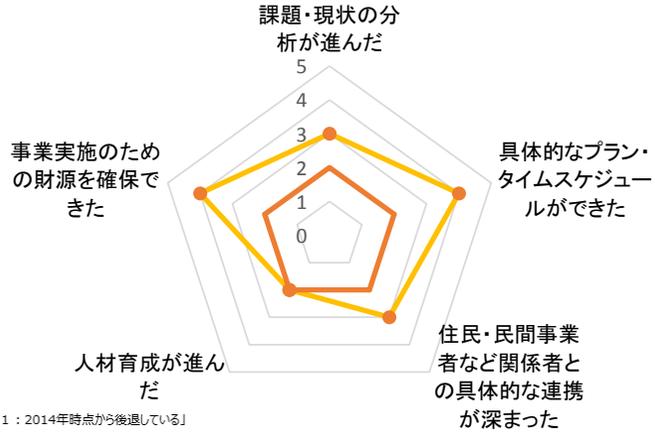
〔戦略と現状とのギャップ等〕

- ・ 国の制度により2019年10月から保育園・幼稚園無償化が実施されている。
- ・ 教育委員会と町長の協議の場である総合教育会議において、今後の方向性について意見交換を開始している。

◇ 町立こども園（幼稚園）での預かり保育の実施の継続

地方創生推進交付金

【基盤整備の評価】



「1：2014年時点から後退している」
 「2：2014年時点から概ね変わらない」
 「3：2014年時点から進展している」「プラン・タイムスケジュールができている」
 「4：2014年時点から進展しており、期待した成果を上げている」「プラン・タイムスケジュールどおりに進んでいる」
 「5：2014年時点から進展しており、期待した以上の成果を上げている」「プラン・タイムスケジュールが前倒して進んでいる」

【実績】

- 3～5歳児の早朝・延長・土曜・長期休業中における預かり保育を実施している。預かり保育待機児童は発生していない。
- 2017年度には、預かり保育機能を兼ねた地域交流施設「そだちの家」を蓮潟こども園に隣接して整備。
 - ・ 蓮潟こども園の平日の預かり保育、土曜日における町立3こども園の預かり保育の施設として使用
 - ・ 預かり保育のこどもたちが地域の伝統文化である「蓮潟かぐら」に触れるイベントも実施されており、住民や組織が枠組みを超えて交流する地域交流施設として機能発揮を推進していくことが課題。



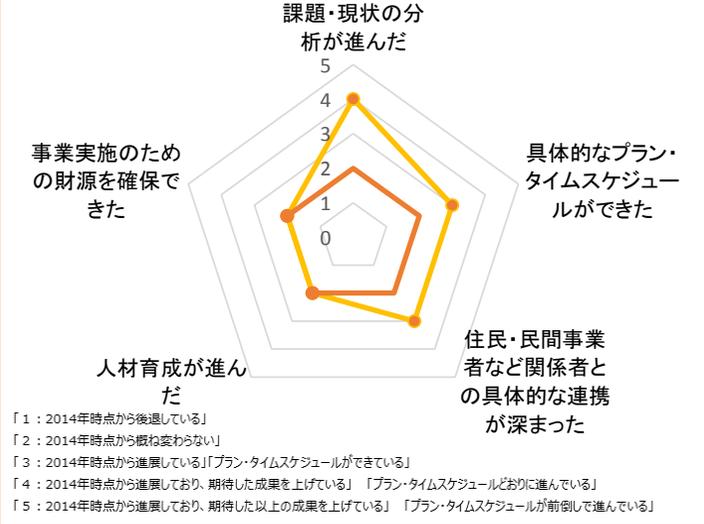
【戦略と現状とのギャップ等】

仕事と子育ての両立から、国の政策である幼児教育無償化も手伝って、預かり保育のニーズは増加すると思われる。

◇ 男女共同参画社会・女性活躍推進に向けた取組み

定住自立圏連携事業

〔基盤整備の評価〕



〔実績〕

- 2017年度に、聖籠町第3次男女共同参画計画を策定。
- 企業への個別訪問などハッピーパートナーへの登録を勧奨。
- 2018年度からは広報せいらうで「男女共同参画コーナー」掲載。
- 定住自立圏事業で講演会などのイベント開催、啓発リーフレット作成。

	2016	2017	2018	2019
ハッピー・パートナー企業登録数	4	4	7	
くるみんマーク認定企業	0	0	0	

〔戦略と現状とのギャップ等〕

- 子育てと仕事の両立のためにも、男女共同参画社会・女性活躍推進の取り組みは重要性は高まっている。
- 一方で、町の30～49歳の61%は町外で就労していることから、定住自立圏など広域的な取り組みが効果的と考える。

